

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63-42520

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)3月22日

B 65 D 5/44
5/28

6540-3E
6540-3E

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 運搬用箱

⑯ 実 願 昭61-136412

⑰ 出 願 昭61(1986)9月5日

⑱ 考 案 者 小 泉 昌 一 神奈川県伊勢原市板戸375番地 相模製函株式会社内

⑲ 出 願 人 相模製函株式会社 神奈川県伊勢原市板戸375番地

⑳ 代 理 人 弁理士 高木 福一

明 細 書

1. 考案の名称

運搬用箱

2. 実用新案登録請求の範囲

段ボールにおけるライナー及び中心をポリプロピレンによつて形成した一枚の板を裁断し、底壁 1 を中心とし、該底壁 1 の左右両側に折線 2, 3 を介して前壁 4、後壁 5 を連設すると共に該底壁 1 の上側と下側に折線 6, 7 を介して側壁 8, 9 を連設し、更に該側壁 8, 9 の左右両側に折線 10, 11, 12, 13 を介して前壁 4、後壁 5 の内面に添わせて貼着する重合貼着板 14, 15, 16, 17 を連設した運搬用箱本体において、前記前壁 4 及び／又は後壁 5 の所要部に名札差の大きさよりも稍大径の切欠部 20, 21 を設けると共に、前記重合貼着板 14, 15, 16, 17 の広さを、該重合貼着板 14, 15, 16, 17 をもつて前記切欠部 20, 21 を前壁 4、後壁 5 の裏側から覆うことができる広さに構成し、以つて前記折線に沿つて側壁 8, 9、前壁 4、後壁 5 の



夫々を起立させ、重合貼着板 14, 16 を前壁 4 の、重合貼着板 15, 17 を後壁 5 の内面に夫々貼着して箱本体を組み立てたとき、前壁 4、後壁 5 の切欠部 20, 21 内に箱本体とは別体に形成される名札差 22 を嵌め入れ、切欠部 20, 21 から露出する各重合貼着板 14, 16, 15, 17 の外面に該名札差 22 を取着することができるようにしたことを特徴とする運搬用箱。

3. 考案の詳細な説明

「産業上の利用分野」

本考案は運搬用箱に関するものである。



「従来の技術」

本考案は段プラボックスと称される運搬用箱に関するものであり、該箱は箱の素材として第 7 図に示した板を用いるものである。該板は従来の段ボールにおけるライナー a, b 及び中心 c をポリプロピレンによつて形成したものである。

斯かる板をもつて製作される従来の運搬用箱は、第 5 図に示す如く、品名、納入社名等を記入した名札 A を收容する名札差 B を箱の前壁 C の外面に

取着していた。しかし、斯かる段プラボックスと称される運搬用箱にあつては、前壁Cが垂直で且つ扁平であるため、名札差Bは外側に出つ張つた状態となつている。

このため物品を収容して運搬するときや、いくつも箱を積み重ねるとき等に名札差Bが他の箱等に接触しやすく、最近特に接触による名札差の毀損事故が多発し、この点の改善が強く望まれている。

「考案が解決しようとする問題点」



本考案は上記の点に鑑みなされたものであつて、箱本体の前壁及び／又は後壁の所要部を名札差より稍大径に切欠すると共に、側壁に折線を介して連設した重合貼着板をもつて前記切欠部を前壁及び／又は後壁の裏側から覆うようになし、箱本体を組み立てたとき、該切欠部から露出する重合貼着板の外面に名札差を取着するようになして、名札差の出つ張りを少なくした運搬用箱を提供せんとするものである。

「問題点を解決するための手段」

以下、本考案を図示した実施例に即して更に詳細に説明する。

第 1 図は組み立てを完了した状態における斜視図、第 2 図は箱本体の展開平面図、第 3 図は組み立て途中における斜視図、第 4 図は名札差を重合貼着板の外面に取着した状態の縦断面図である。

本考案は、従来の段ボールにおけるライナー及び中心をポリプロピレンによつて形成した一枚の板を裁断して組み立てる箱本体と、該箱本体と別体に形成する名札差とからなるものである。尚、名札差はポリプロピレンによつて形成されるものである。

然して、箱本体は第 2 図に示した如く裁断するものであり、底壁 1 を中心とし、該底壁 1 の左右両側に折線 2, 3 を介して前壁 4、後壁 5 を速設すると共に該底壁 1 の上側と下側に折線 6, 7 を介して側壁 8, 9 を速設し、更に該側壁 8, 9 の左右両側に折線 10, 11, 12, 13 を介して前壁 4、後壁 5 の内面に添わせて貼着する重合貼着板 14, 15, 16, 17 を速設してなるも

のである。また、前記前壁 4 と後壁 5 には把手穴 18, 19 が穿設されている。そして、本考案にあつては、前記前壁 4 及び／又は後壁 5 (図示した実施例においては前壁 4 と後壁 5 の両方) の所要部 (図示した実施例においては中央部) に後記名札差の大きさよりも稍大径の切欠部 20, 21 を設けると共に、前記重合貼着板 14, 15, 16, 17 の広さを、該重合貼着板 14, 15, 16, 17 をもつて該切欠部 20, 21 を前壁 4、後壁 5 の裏側から覆うことができる広さに構成したことを特徴とするものである。



尚、本実施例においては、各重合貼着板 14, 15, 16, 17 の幅 W_1 は前壁 4 又は後壁 5 の幅 W_2 の $1/2$ としている。

そして、箱本体を組み立てる場合には、先ず折線 6, 7 に沿つて側壁 8, 9 を夫々起立させると共に折線 10, 11, 12, 13 に沿つて各重合貼着板 14, 15, 16, 17 を夫々内側に向けて折り曲げる。次に折線 2, 3 に沿つて前壁 4, 5 を夫々起立させると共に、前壁 4 の内面に重合

貼着板 14, 16 を、また後壁 5 の内面に重合貼着板 15, 17 を夫々添わせて接着することによつて完了する。

このようにして箱本体の組み立てを完了した後、前壁 4、後壁 5 の切欠部 20, 21 に箱本体とは別体に形成した名札差 22 を嵌め入れ、接着、ビス止め等の手段によつて切欠部 20, 21 から露出する各重合貼着板 14, 16, 15, 17 の外面に取着するものである。

「考案の効果」

本考案は上記の如く、箱本体の前壁及び／又は後壁の所要部を名札差より稍大径に切欠すると共に、側壁に折線を介して連設した重合貼着板をもつて前記切欠部を前壁及び／又は後壁の裏側から覆うようになし、該切欠部から露出する重合貼着板の外面に名札差を取着するようになしたものであるから、名札差は前壁又は後壁の厚味の分だけ箱内部に引つ込んだ状態で取着されることになる。

したがつて、従来 of 如く名札差が箱本体より大きく出つ張らないから、運搬時や箱を積み重ねる



とき等でも名札差が他の箱等に接触して毀損する
といった事故は皆無となり、名札差のつけ替えに
要する無駄な手間と費用を節約することができる
ものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は組み立てを完了した状態における斜視
図、第2図は箱本体の展開平面図、第3図は組み
立て途中における斜視図、第4図は名札差を重合
貼着板の外面に取着した状態の縦断面図、第5図
は従来の箱の斜視図、第6図は従来の箱における
名札差の取着部分の縦断面図、第7図は箱素材の
説明図である。



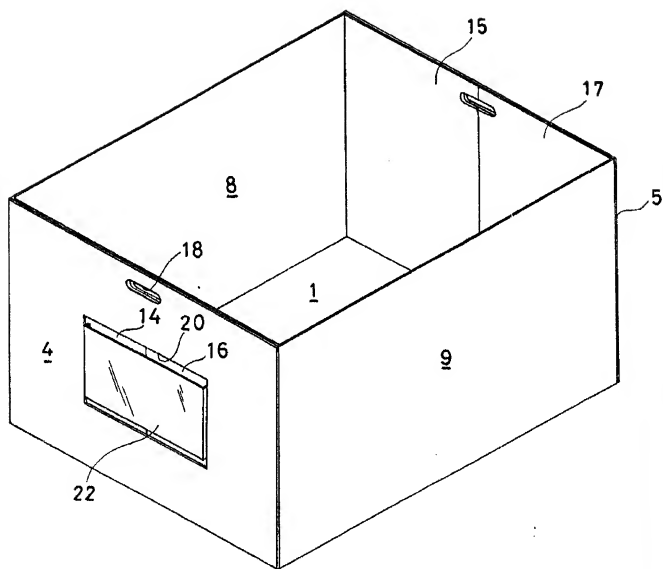
実用新案登録出願人

相模製函株式会社

代理人 弁理士

高 木 福 一

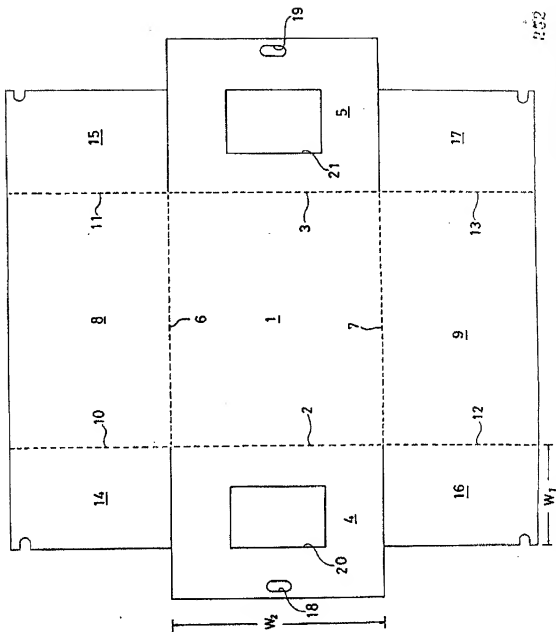
第 1 図



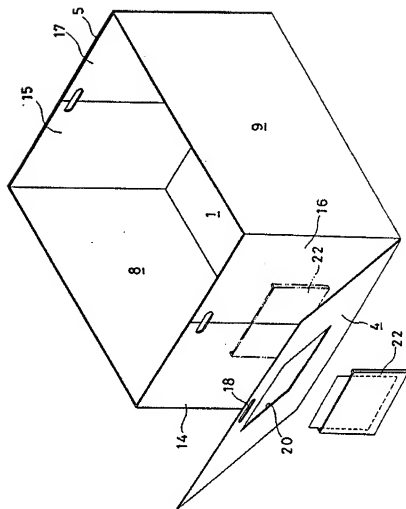
251

代理人 株式会社 高木福一

第 2 図



第 3 図

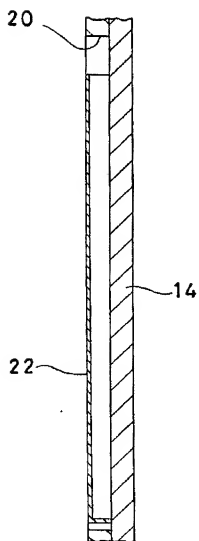


253

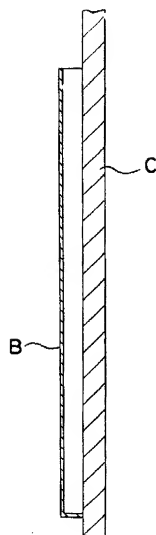
代理人 株式会社第一

SHIMIZU KOGAKU

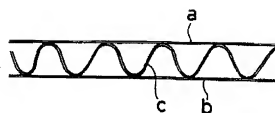
第 4 図



第 6 図



第 7 図

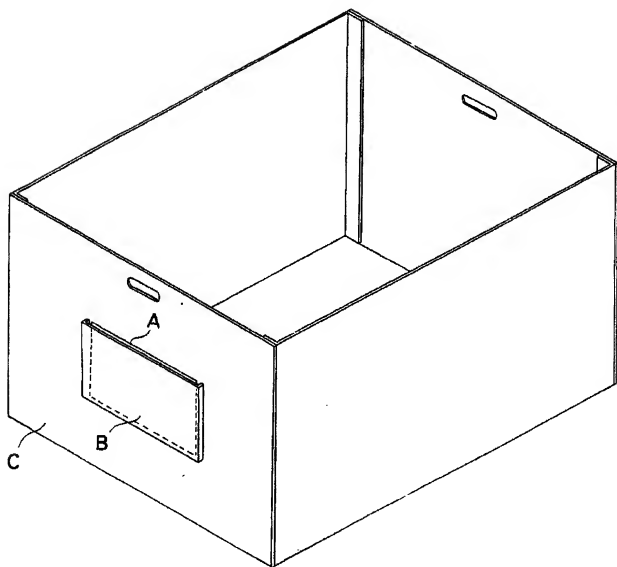


254

代理人 藤理士 高木 福一

出願 20 1050

第 5 図



255

代理人 特理士 高木 福一